げんきカエル

No.61

兵庫県立こども病院
ニュースレター

KOBE CHILDREN'S HOSPITAL

平成30年(2018)　4月1日

事故防止

整形外科　坂田　亮介

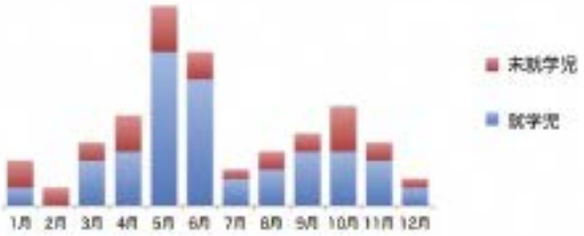
４月は、新しい学校に入学したり、新しい学年が始まったり、人生の新しいステップに進む季節です。気候も良く、運動も楽しいワクワクする時期です。しかし、行動範囲や友達関係が広くなるに従い、怪我をする危険性も高まります。新病院に移転して以来、子供さんの怪我や骨折で整形外科外来あるいは救急外来を受診された人数は、春先に多く、手術や処置を要する怪我に限ると、４月から６月で全体の約50%を占めていました（図１）。その期間では、就学児の骨折の割合も高く、そのほとんどが屋外での怪我であり、交通事故以外では遊具使用中や木登り、ブロック塀からの転落などが怪我の原因としてよく見られます。

子供は、運動や遊具を使って遊びながら、大切なことを学び、運動能力を向上させ、また危険を回避する能力を養うことができるのだと考えています。しかし、遊び方を間違えると、重大な怪我をすることがありますので十分な注意が必要です。仲良く順番を守って、遊具の使い方やルールを守って遊ぶことが大事です。しかし、子供達は大人では想像もつかないような（危険な）遊び方を考えつくことがありますので、ご家庭でも日常的に、どのような遊具でどのように遊んでいるかなど雑談程度で結構ですのでコミュニケーションをとっていただくことも重要です。また遊びに行く時の洋服や靴にも気を配っていただきたいところです。フードやマフラー、ストラップ、夏であればサンダルにも事故を引き起こす危険がありますので注意をしましょう。

いろいろと気をつけていても、子供さんが自宅や屋外にかかわらず怪我をしてしまうことは避けがたいものです。整形外科が対応できるような手足の怪我であっても、まずは頭を打っていないか、受け答えができるかどうかが大事です。そうでなければ、痛がる場所を確認して、危ない場所でなければ動かさず、痛がらないように、怪我の確認をしてみてください。その上で、小児救急医療電話相談（#8000）、各自治体のこども急病センター（神戸市であれば救急安心センター（#7119）など）にご連絡をしていただいて対応の指示を受けてください。

子供は怪我をしながら成長するものではありますが、痛みを抑えること、必要な治療期間を短縮すること、そして後遺症が残らないように冷静に、そして速やかな対応を心がけましょう。

図1: 2016-17 整形外科外傷関連手術件数



神戸陽子線センター開院

小児がん医療センター長
小阪　嘉之

全国でも初めての小児に重点をおいた陽子線治療センターが、渡り廊下でつながる形で、兵庫県立こども病院に隣接する地に平成29年12月１日にオープンいたしました。小児がんは全国で年間2500例程度発症の希少疾患ですが、治療に対する反応が良い疾患が多く、医学の進歩に伴い、その70%程度は長期生存が果たせる疾患となってきました。ただし治療の強度が増し、晩期合併症で苦しむ患者さんも少なからず見られます。放射線療法は小児がんを治すためには、化学療法･手術と並んで大事な位置づけの治療法ですが、従来のX線（エックス線）を使った放射線照射では、どうしても腫瘍以外の健常部にも放射線があたり、２次がんやその他多くの晩期合併症の原因となります。陽子線はより腫瘍部に集中的な照射が可能で、健常部への被曝が少なく済むため、上記の晩期合併症を軽減させることが期待できます。平成28年４月から小児に対しては健康保険も適用されました。陽子線治療を施行するこどもさんはこども病院に入院していただき、全身管理をしながら、照射の時には渡り廊下を使って陽子線治療センターに行って治療を受けます。照射時じっとできない乳幼児に対しても専門の小児麻酔医が常駐しており、鎮静を安全に施行することが可能です。今後のより良い小児がん診療に多大なる貢献を寄与することが期待できます。

こども病院と神戸陽子線センター
（渡り廊下でつながる）

小児用陽子線治療装置

兵庫県立こども病院―理化学研究所　多細胞システム形成センター（CDB）第2回ジョイントシンポジウム開催

臨床研究支援室　田中　亮二郎

2017年12月16日 理化学研究所 多細胞システム形成センター（ＣＤＢ）にてシンポジウムが開催されました。このシンポジウムの目的は、日本を代表する研究機関である理化学研究所で行われている基礎医学研究とこども病院での臨床を通して相互理解を深め研究交流することにあります。こども病院側からは51名、理研側からは57名の参加がありました。今回は、初期胚発生と異常、脳神経系の発達と障害をテーマに９題の講演と１３題のポスター発表があり、夜遅くまで情報交換が出来ました。また、動物施設、水棲動物棟、シークエンス設備見学があり、講演以外の楽しみもありました。次回も興味あるテーマを考えています。

臓器提供シミュレーションが開催されました。

脳神経内科
丸山　あずさ

臓器提供について、新聞やニュースなどでお聞きになったこともあるでしょうか？ 2010年に臓器移植法が改訂され、成人のみならず、15歳未満の脳死状態の方からの臓器提供も可能となりました。当院でも、集中治療の甲斐なく回復不可能になった方に対しては、一定の基準を満たす状態であれば、終末期医療の選択肢の一つとして、ご家族の希望と同意の上で臓器提供を行うことが可能となっています。実際には厳密な脳死判定と様々なプロセスを経る必要があり、いつでも臓器提供のお申し出に対応できるように、病院としても準備を整えておかなければなりません。

今回、臓器提供に至る手順を確認し、理解を深める目的でシミュレーションが開催されました。医師、看護師だけでなく、検査部や事務の方など院内コメディカル、外部からはこども家庭センターや警察の方など、約50名に参加いただきました。あらためて"命"について考えるきっかけともなりました。

『ご寄附の感謝について』

兵庫県立こども病院に対し、毎年多くの方々から、心温まるご寄付を賜っています。

心より感謝申し上げます。

平成29年度（4月～12月）は延べ12団体、20名の個人の方々より、総額約200万円の寄附や絵本、図書等の寄贈を賜りました（下表参照）。寄附金・寄贈品につきましては、患者様の療養生活の改善のために有効に活用させていただいております。今後もご家族と地域社会と一体となってこどもたちの健やかな成長を目指して参りますので、より格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

受納月	ご寄付頂いた方	寄附内容
4月	みなと銀行　様	備品等
6月	先天性四肢障害児父母の会　様	絵本
6月	上田　達郎　様	現金
7月	一般財団法人みなと銀行文化振興財団　様	書籍　※写真
6月	太田　采花　様	プリザーブドフラワー
6月	三和建設株式会社　様	現金
8月	姫路地区骨髄バンク推進センター　様	CDラジカセ・トレイ
8月	河合　亮太　様	現金
9月	武田　清美　様	絵本
10月	一般財団法人　神戸万国医療財団　様	現金
12月	株式会社クニサキ　様	現金
12月	日本出版販売株式会社　様	絵本
12月	ハッピーライフ株式会社　様	絵本・おもちゃ等

※寄附申出書において、ホームページ等の掲載にご了解された団体（個人）のみ記載しています。

寄附金・寄贈品へのお問い合わせ先
兵庫県立こども病院　総務部総務課

電話交換室の紹介

こども病院には、患者様の治療に直接携わりませんが、皆様が安心して受診できるように、陰ながら支えている医療職以外の職員がいます。今回は電話交換室のお仕事を紹介します。

電話交換室では３台の交換台を使用して業務を行っています。夜間、休日以外にこども病院に電話をかけられたことがありますか？その時、いちばん最初に電話応対をしているのが電話交換室のオペレーターです。このオペレーターが外からかかってきた電話に応対し担当者につなぐ仕事をしています。逆に病院から患者様やご家族、その他外部に電話で連絡がとりたいときも、その取り次ぎをしているのが電話交換室のオペレーターです。

また、病院内で呼び出し等の放送を聞かれたことはありますか？あの声もオペレーターのみなさんの声です。一つのお部屋で電話応対も、院内放送もしているので、院内放送の際は電話応対の声が入らないように、電話に出られなくなるのが悩みだそうです。患者様からのお電話にスムーズに応対できるよう、呼び出し放送が少なくなるといいですね。

最後に業務にあたり心掛けていることを聞きました。

①電話をかけてこられた方をお待たせしないように迅速、丁寧、正確に電話を繋ぐ
②滑舌良く分りやすく応対する
③こちらの顔が見えないので声のトーンに気をつける
④「病院の顔」という認識を常に持ち応対することだそうです。業務開始前は全員が"笑声"を心掛け鏡を見ながら口角を上げる確認をしているそうです。患者様、ご家族の皆様に顔が見えない仕事だからこその気配りをしている電話交換室のオペレーターのみなさんです。

Concept コンセプト

●基本理念　周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

●基本方針
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

最先端の研究を行う理化学研究所や、最先端の放射線治療を行う陽子線センターとの連携など、移転後２年を迎えようとしている当院の取り組みについてお伝えしました。

色とりどりの花が咲き、日ごとに暖かくなり、気持ちも明るくなります。外での活動が増えてきますが、ケガをしてしまうと楽しかった思い出も台無しになってしまいます。お子様の安全には十分にご留意下さいますよう、編集委員会からもお願い申し上げます。

編集委員長：大津雅芳
編集委員：隅岡繁宏　谷本江利子
橋本ひとみ　新井隆浩
山口善道　坂田亮介
笠木憲一　井口秀子
山本正子　沼田憲作
大前隆広　近藤由敬
中嶋元樹

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで

兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL KOBE CHILDREN'S HOSPITAL
〒650-0047
神戸市中央区港島南町１丁目6-7
TEL 078-945-7300
FAX 078-302-1023
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

29 表P2-022 A4